

## 令和5年度 ユース栃木夏山報告

1 期日：令和5年7月26日～28日

2 場所：北アルプス 白馬岳・杓子岳・鑓ヶ岳・唐松岳

3 日程コース

7月26日 猿倉駐車場（19：00）猿倉荘泊

7月27日 猿倉荘（4：20発）～白馬尻（5：15～5：30）～白馬岳頂上宿舎（8：30～8：40）  
～白馬岳（9：20～9：30）～白馬山荘（9：45～10：30）～杓子岳（11：40）～白馬鑓ヶ岳  
（12：50）～天狗山荘（13：40）小屋泊

7月28日 天狗山荘（4：10）～天狗の頭（4：25）から不帰嶮～唐松岳（7：40～8：00）～  
唐松岳頂上山荘（8：10）～八方池（9：30～9：45）～八方山荘（10：10）

4 参加者（3名）

林 祐寿・深谷 篤志・荒井 理

5 行動概要

7月27日 晴れのち曇り

前日は猿倉荘に宿泊、人気のルートということもあり、平日にもかかわらず山荘は混んでいるようだった。

予定より早い4：20、猿倉荘を出発。車中泊組だろうか、すでに何組か先行パーティーがヘッドランプを点灯させて山荘の前を通過していく。こちらもヘッドランプを装着してのスタートとなったが、間もなくして日が昇り、すぐに必要なくなった。白馬尻小屋を過ぎると、いよいよ大雪渓へと入っていく。林・荒井は今回新調したチェンスパイクを装着、深谷も軽アイゼンを装着し、雪渓を歩き始める。週末であれば雪渓上に行列ができるのだろうが、前後共に人はまばら。やはり人気のルートは平日にかぎると、あらためて感じた。この時期でも雪が固く締まり、チェンスパイクの短い爪でもよく利いて歩きやすかった。日が昇るにつれ杓子岳側の尾根から落石が多くなり、雪渓まで到達するものもある。視界の悪い日は音もなく雪渓の上を転がってくる落石には要注意である。一時間半ほどで雪渓を通過、さらに一時間半ほどで頂上宿舎に到着。天気も良く、南には特徴ある頂の杓子岳・鑓ヶ岳、北には白馬岳と素晴らしい景色である。小休の後、メインザックをデポし白馬岳へ。白馬山荘を通過し山頂へ到着するとまさに360度の大自然という言葉がふさわしい景色だった。何より剣・立山連峰の姿はすばらしかった。その後白馬山荘のレストランに立ち寄り、剣岳の見える窓際の席でコーヒーを飲んで暫く景色を楽しんだ。頂上宿舎へ戻りデポしたザックを背負い、杓子岳へ出発。巻道ではなく頂上へ向かい一時間ほどで到着、続けて鑓を目指す。そのころにはガスがかかり、視界も悪くなってきた。杓子岳から更に一時間ほどで鑓ヶ岳に



【大雪渓を登る】



【白馬山頂】

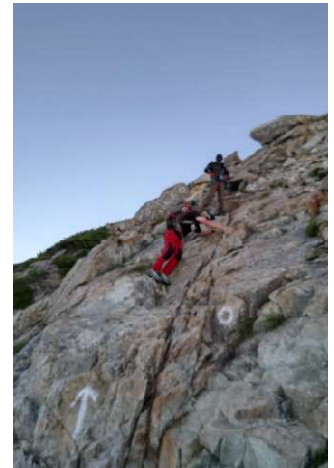
到着。白馬方面はガスで見えないが、これから進む天狗山荘方面は確認できた。釜温泉への分岐を通過しようやく本日の宿である天狗山荘へ到着。2020年にリニューアルした山荘は外観が黒でまとめられたなかなかカッコいい山小屋だ。小屋のすぐ目の前には雪渓があり、その雪解け水が小屋に引いてあるようだ。チェックインを済ませザックを部屋に運ぶ。上下二段に仕切られた6畳ほどのスペースを3人で利用できるらしく、ゆったり過ごせそうだ。夕食も暖かい鍋料理など凝ったメニューが並び、本日の疲れが癒された。

7月28日 晴れ

予定より早めの2:30に起床、インスタントラーメンで簡単に朝食を済ませ、4:10に出発。雲はやや多めだが、天気は悪くない。間もなく天狗の頭に到着し、少し日の出を待とうとしたがまだ早いようなので先へ進むことにした。なだらかな稜線を少し進むと天狗の大下りが始まる。300Mを一気に下る、本日始めの難所となる。鎖場が所々に設置されており、慎重に通過する。浮石も多く落石させないように注意も必要だ。ガイドブックによると近年入山者が多い為、ここで渋滞発生するともあったが、すれ違う登山者も数名でスムーズに通過できた。コルに到着し小休の後、いよいよ不帰の嶮へと登り始める。一峰は稜線伝いに登り、核心となる二峰に取りつく。鎖も設置されているがホールドも少くありとあるため、落石に注意しながら岩を攀じ登る。やがてアングルの橋を渡り信州側へ回り更に岩を登ると二峰の頂上へ到着する。まだまだ油断はできないが、このルート一番の難所は無事通過することができた。南峰、三峰と進むにつれ唐松岳が大きく見え、間もなくして今回最後の山頂に到着。天候にも恵まれて、先ほどまで歩いてきたルート、南には五竜岳、南西には終始剣岳の雄大な姿を望むことができた。唐松岳頂上山荘を通過し、八方尾根を一気に下山と言いたいところであったが、丸山あたりから徐々にすれ違う人が増え始め、八方池に着く頃にはかなり多くの登山者、いや観光客で賑わっていた。金曜日とはいえ夏休みだし、リフトを降りて一時間程でこの素晴らしい景色を見ることが出来るのでは無理もない。とは言え、八方池山荘からはリフト三本を乗り継ぎ標高差約1,000Mを一気に下り八方へ下山、無事に山行を終えることが出来た。

今回は人気の山域という事もあり、ルート上や山荘での混雑も心配したが、幸い平日に来ることができ八方池からの下山を除いては快適な山歩きを楽しむことが出来た。また、同行していただいた二人にも感謝したい。また次回、楽しい山行ができるよう、体力・技術の向上に励みたいと思う。

文責 荒井 理



【天狗の大下り】



【唐松岳山頂】